

水曜日の午後

十二時半、午前の最後の患者を送り出す。カルテの事務的な処理を事務のYさん、Sさんに任せて二件の往診に出る。まず八十七歳のチヨメさんのところ。鎌倉山を越して七里ガ浜へ下る近道には、途中狭いところがあつて一方通行になつていたので車だと腰越を廻らねばならず時間がかかる。今日は降つてもいないし、急ぐのでバイクで山を越す。

チヨメさんではなくて本当は千代女さんなのだろうが、一寸咳が出るだけで、そして耳が遠くて車に酔う癖があるので医院まで来られないだけで元氣。

六月まではここからもう一軒、鎌倉高校前のNさんの所へ廻つていただけけれど、先日Nさんは何かを誤飲して近くの聖テレジア病院に運ばれたが嚔下性肺炎を起こして急死、往診の必要がなくなつてしまつた。

また鎌倉山への急坂を、エンジンかけたままのバイクを押しながら越えて、今度は梶原のYさんのところ、八十七歳、脳梗塞で寝たきりになつて半年になる。五十六歳の娘さんと二人暮し。問いかければ何やら返事をしてくれるけれど娘さんにも意味は汲み取れない。終日テレビの画面を見詰めている柔和なおばあさんである。幸いにして変わりなし。しかし娘さんの方が看病に疲れて精神的に不安定になつてゐる。交代なしの終日勤務だから本当に気の毒である。娘を育てた母には日毎に成長する子を見守る大きな歓びがあつたのに、介護している娘には次第に老い込んでゆく母の姿を見る悲しみしかない。

その足で今度は深沢支所へ。二時、市役所の保健婦さんと合流して零歳児のツベルクリン接種、三時半まで約五〇人。健康なお母さんと赤ん坊ばかりだから思いっきり泣き叫ぶ声に囲まれながらも気持ちちは明るい。

またバイクで今度は二階堂の元大学教授ご夫妻のところへ。八十七歳で同年、子供縁者なしの二人暮し。教授は頑健そのものなのに奥さんは高血圧で腰もひどく曲がりかけて、この頃家事も大儀でしかありませんとおっしゃる。長い間の習慣でこと家事に関しては横のものを縦にもしないご主人を、奥さんが面倒を見てきたのではあるが、それが無理になつて来た。ご両人とも尊大なところの少しも無い、温和な人たちなのでほんとうに気の毒である。

バイクを飛ばして帰宅すると、実は我が家にも八十七歳の老母がいる。

特に話をするでもなく、黙つて並んで遅い昼飯のつもりで冷えたヤキソバを噛む。優しくしてやりたいとは思ふのだけれど。

食べ終わると五時、既に台所は薄暗い。